

～19世紀の男性の靴と甲布～ ー日本はきもの博物館所蔵ー

1850年頃の靴。

ヨーロッパ市場むけにシリアで作られたもの。薄いブルーのベルベット地に金糸と金色メタルスパンゲルの刺繍。

ヒールは積み草、シャンク・カウンターはみられない。

長25.3×幅8.6×全高7.8cm、ヒール高3.5cm。



19世紀初期の靴。

イタリア。ローマ法王ピオ7世（在位1800-1823）所用と伝わる。

深紅のベルベットに、金糸で法王十字架とよばれるシンボルを刺繍。縁取りの金糸ブレードはヒールにも巻いてある。シルクのリボン結びは退色著しい（写真左は補修）。長27.3×幅9.2×全高8.7cm、ヒール高2.5cm。

19世紀中頃の甲布。

ダークブラウンのシルク地に非常に精巧な刺繍が施されている。花をモチーフにしたほかし手法もある刺繍は中国で刺されたもの。

靴になる部分の長さは22.5cmで、爪先に指示用の白糸が残る。

長28.0×幅35.5cm。

